

第2章 地域を取り巻く現状と課題

1 人口及び世帯などの状況

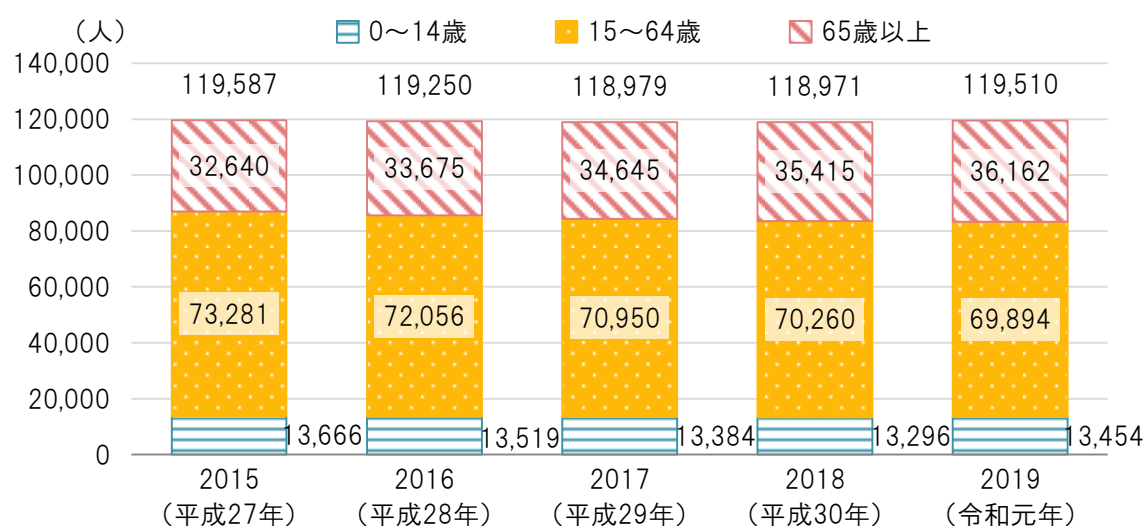
(1) 市の状況

① 人口

平成27年以降の総人口は減少傾向でしたが、令和元年には119,510人となり増加に転じています。

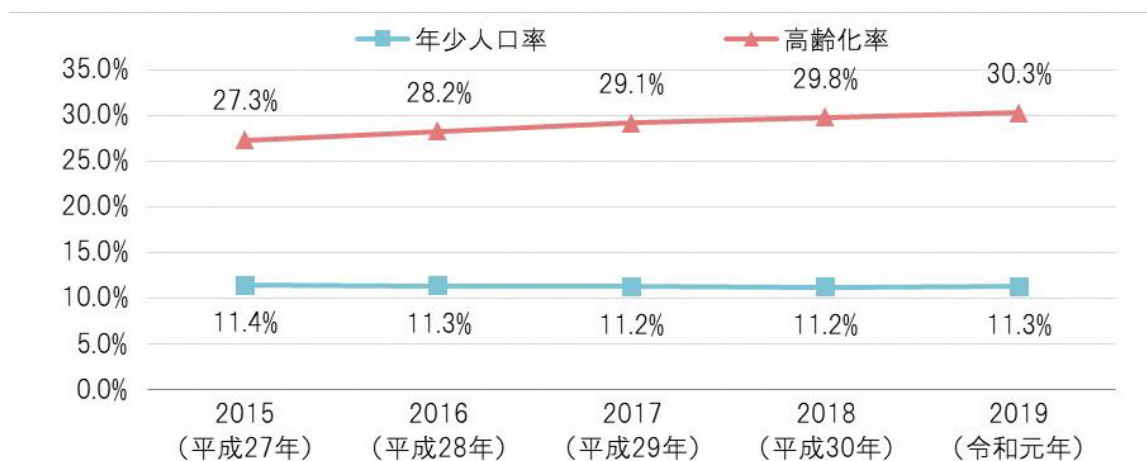
年齢3区分別にみると、0～14歳（年少人口）は平成30年まで減少傾向にありましたが、令和元年には増加し、比率は11.3%となっています。15～64歳（生産年齢人口）は減少傾向、65歳以上（高齢者人口）は増加傾向（高齢化率^{※8}は30.3%）となり、少子・高齢化が続いている状況にあります。

図表1 人口の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

図表2 年少人口率^{※31}・高齢化率の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

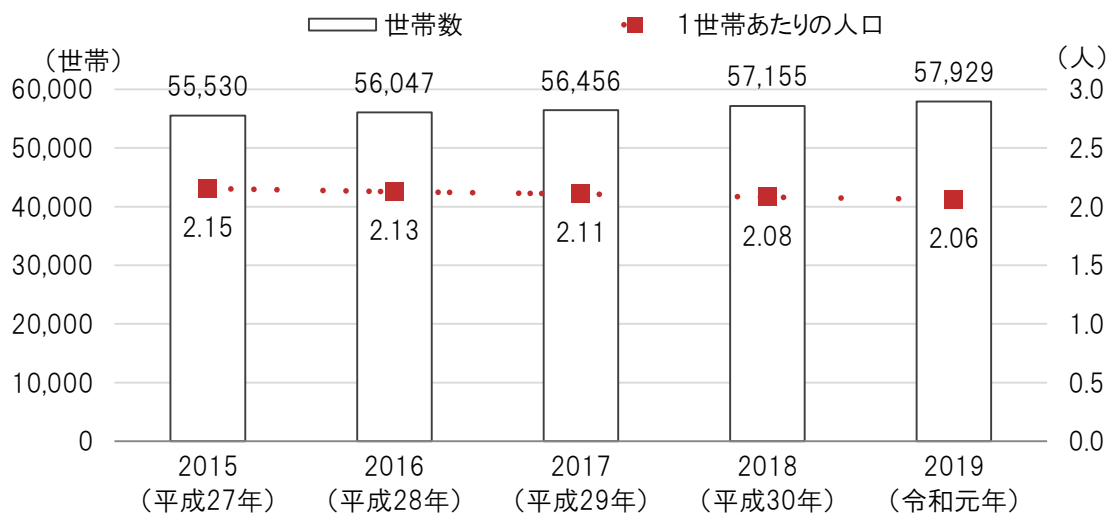
② 世帯数

平成 27 年以降の総世帯数は増加傾向にあり、令和元年には 57,929 世帯となっています。

総人口は減少、総世帯数は増加していることから、1 世帯あたりの人口は減少しており、令和元年には 1 世帯あたり 2.06 人となっています。

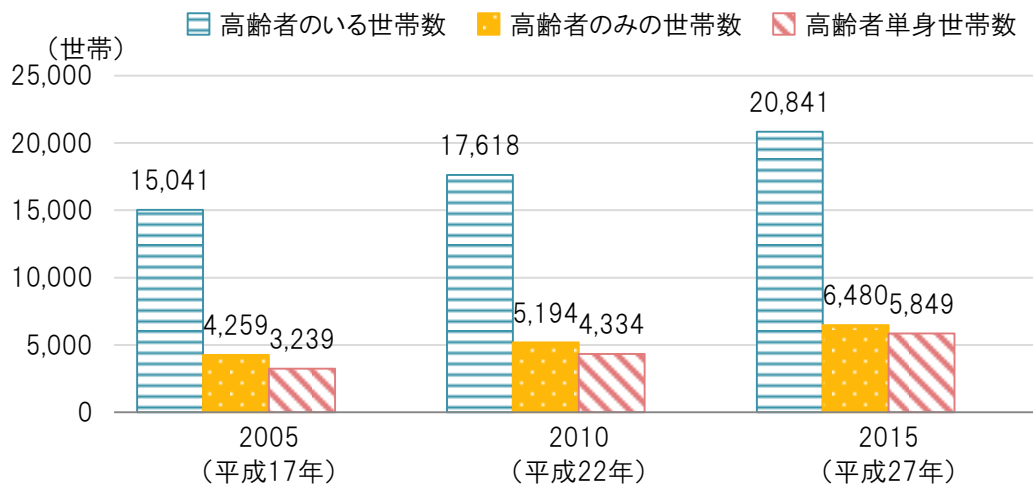
また、65 歳以上の高齢者のいる世帯数は増加しており、平成 27 年には高齢者のいる世帯数（2 人以上の世帯のうち、65 歳以上の高齢者が 1 人以上いる世帯）は 20,841 世帯、高齢者のみの世帯数（いずれも 65 歳以上の夫婦）は 6,480 世帯、高齢者単身世帯数（65 歳以上の単身世帯）は 5,849 世帯となっています。

図表 3 世帯数・1世帯あたり人口の推移



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日）

図表 4 65 歳以上の高齢者のいる世帯数の推移



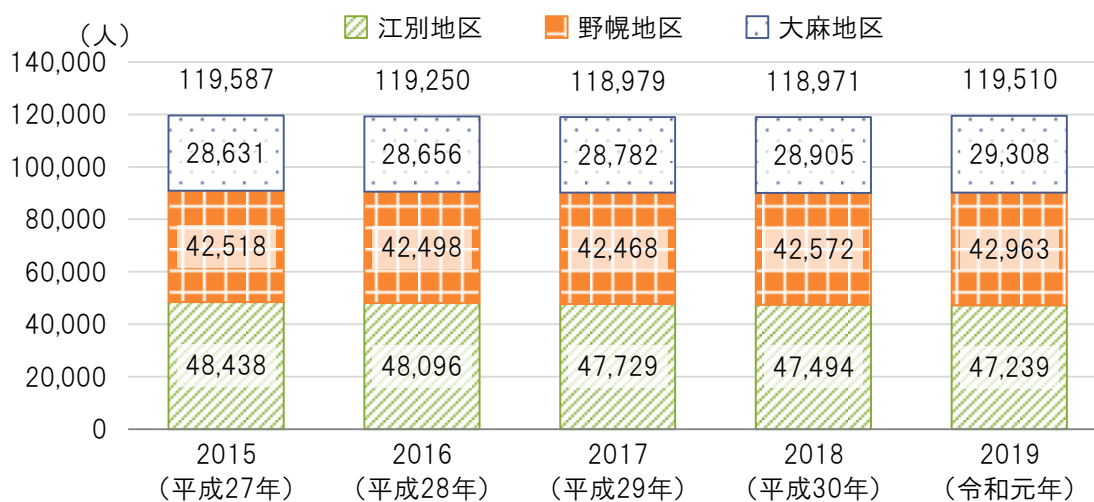
資料：国勢調査※10

(2) 地区別の状況

平成 27 年以降の地区別人口は、江別地区は減少傾向にあり、令和元年には 47,239 人となっています。

野幌地区は平成 30 年より増加傾向にあり、令和元年には 42,963 人、大麻地区は全体で占める割合は少ないですが増加傾向にあり、令和元年には 29,308 人となっています。

図表 5 地区別人口の推移



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日）

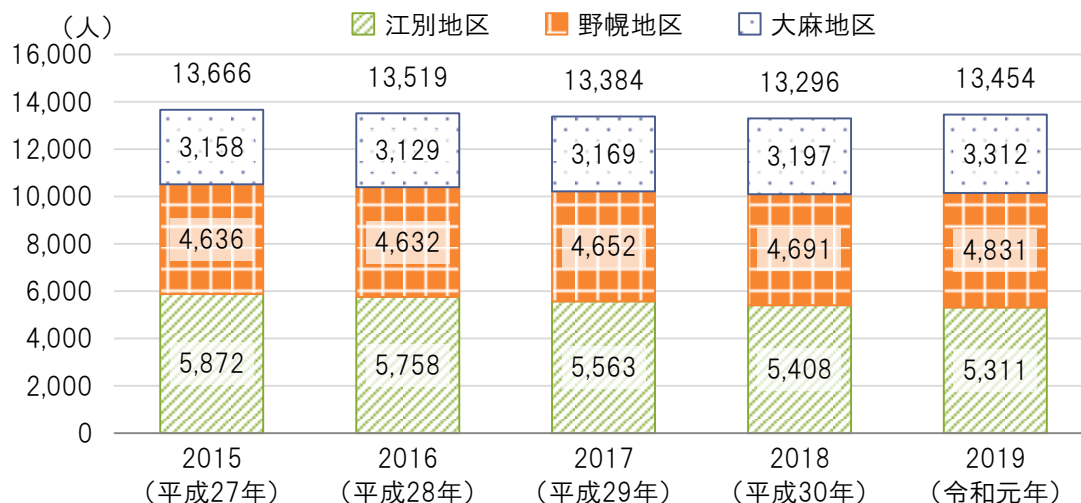


① 年少人口

地区別の年少人口は、江別地区は減少傾向にあります。令和元年には市全体で増加傾向にあり、野幌地区と大麻地区では平成29年から増加傾向となっています。

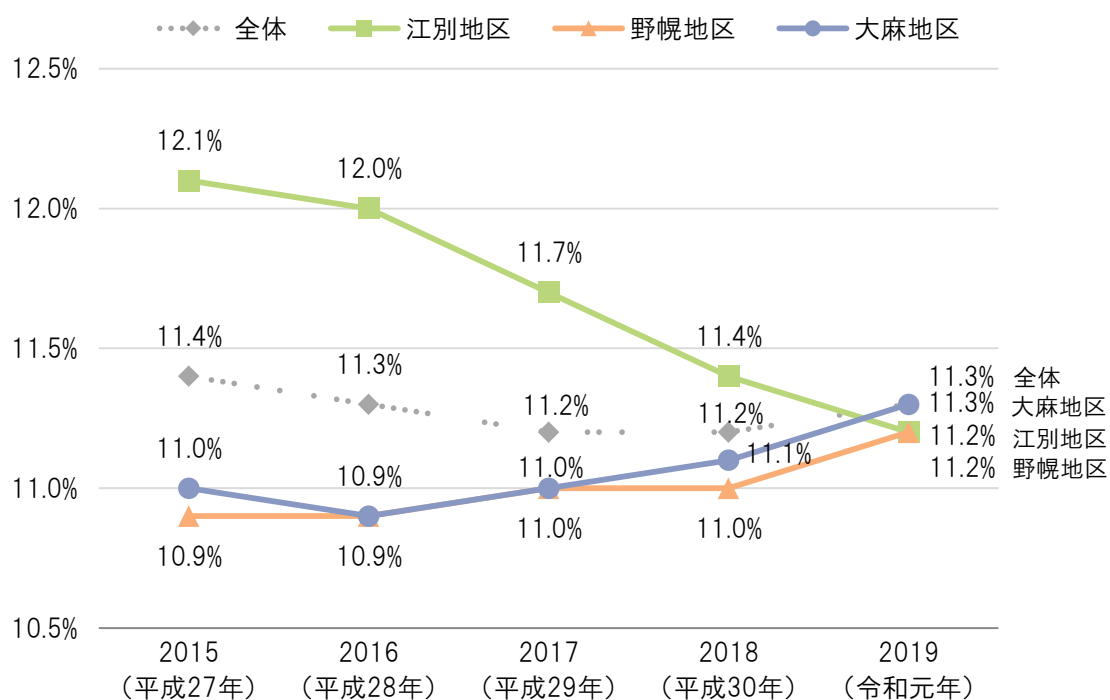
年少人口率の推移をみると、江別地区は割合の減少が続いていますが、野幌地区と大麻地区では割合が増え、令和元年には野幌地区が11.2%、大麻地区が11.3%となっています。

図表6 地区別年少人口の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

図表7 地区別年少人口率の推移



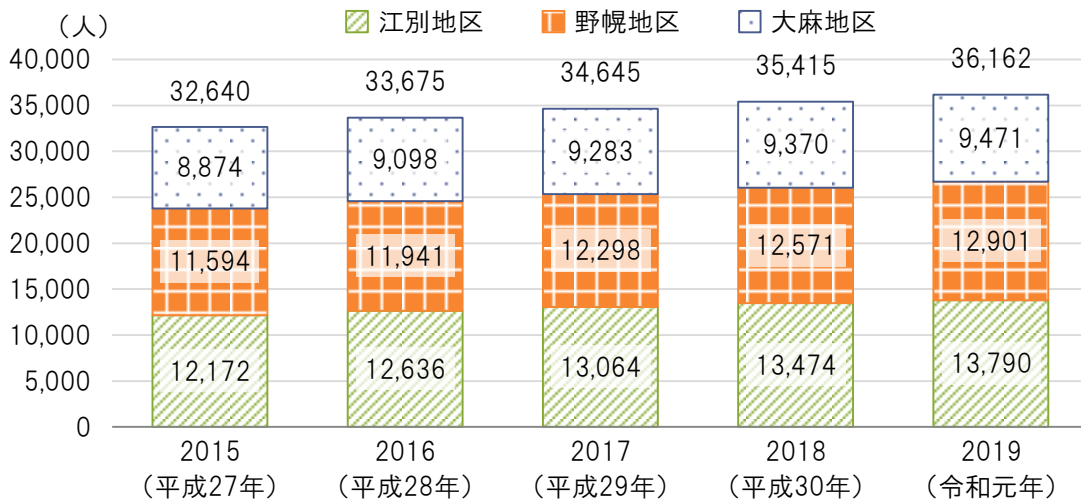
資料：住民基本台帳（各年10月1日）

② 高齢者人口

地区別の高齢者人口は、全ての地区で増加傾向にあります。

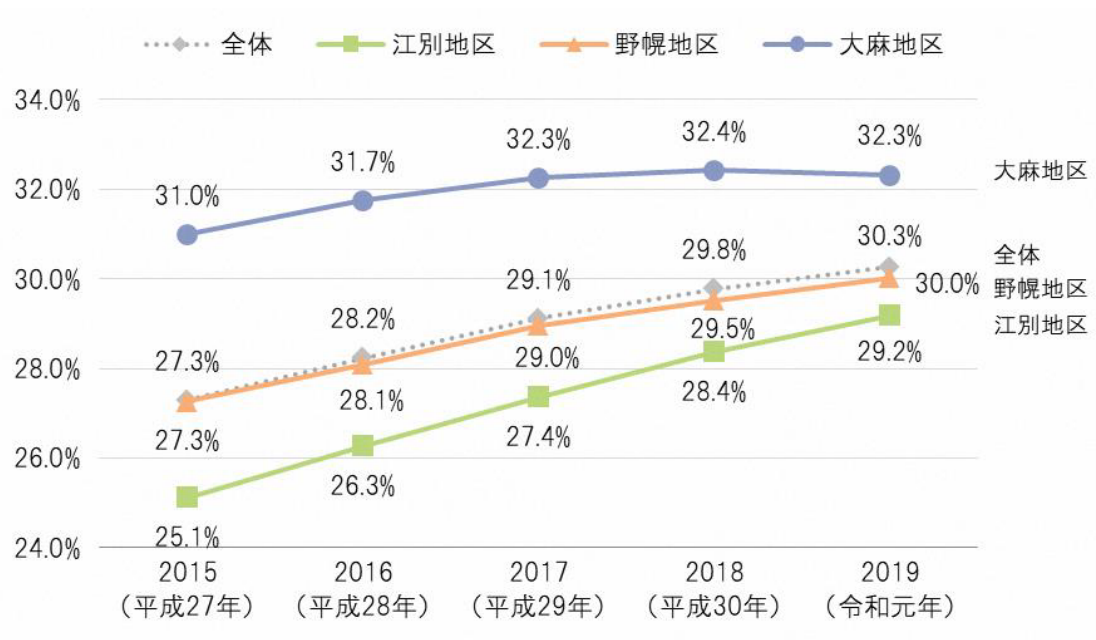
高齢化率の推移をみると、大麻地区が最も高く、令和元年には32.3%となっていますが、平成30年からはおおむね横ばいです。江別地区と野幌地区はともに増加が続いており、令和元年には江別地区で29.2%、野幌地区で30.0%となっています。

図表8 地区別高齢者人口の推移



資料：住民基本台帳（各年10月1日）

図表9 地区別高齢化率の推移



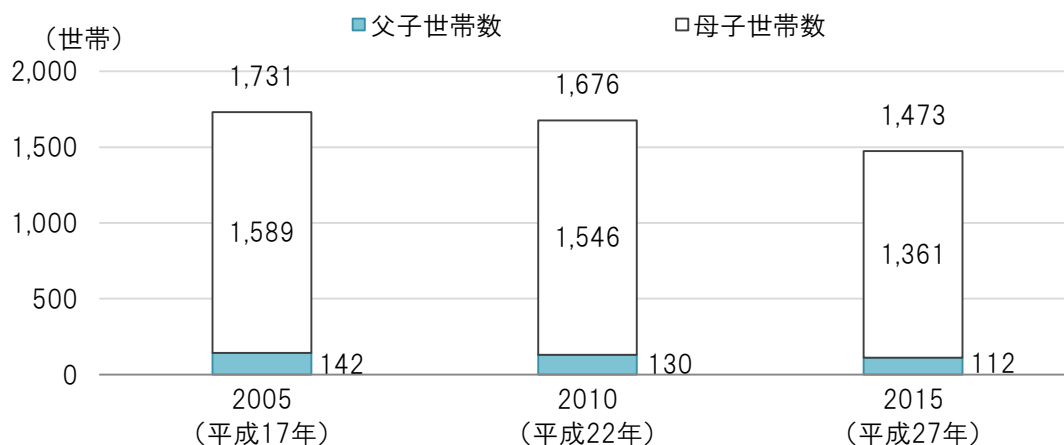
資料：住民基本台帳（各年10月1日）

(3) 社会的支援が必要な方の状況

① ひとり親世帯数（18歳未満の子どもがいる世帯）

平成17年以降、ひとり親世帯数は父子世帯、母子世帯ともに減少を続けており、平成27年には全体で1,473世帯、父子世帯は112世帯、母子世帯は1,361世帯となっています。

図表10 ひとり親世帯数の推移

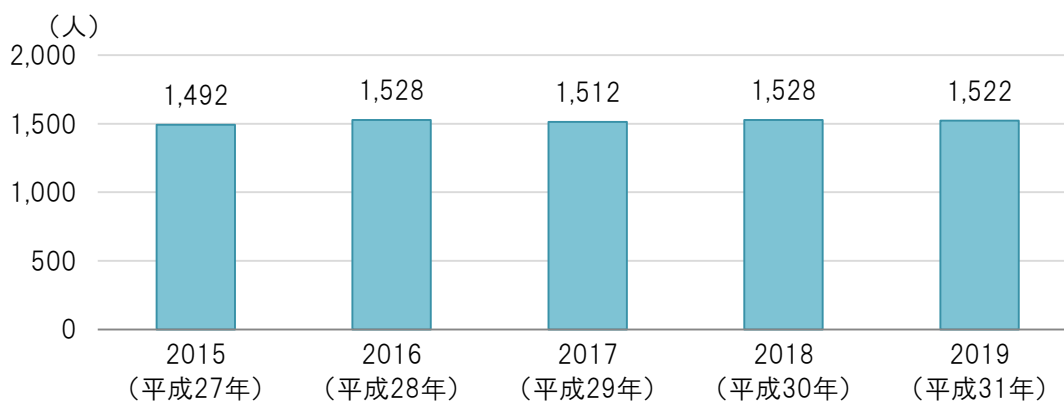


資料：国勢調査

② 生活保護受給者

平成27年以降、生活保護受給者^{*23}はおおむね横ばいが続いており、平成31年には1,522人となっています。

図表11 生活保護受給者の推移



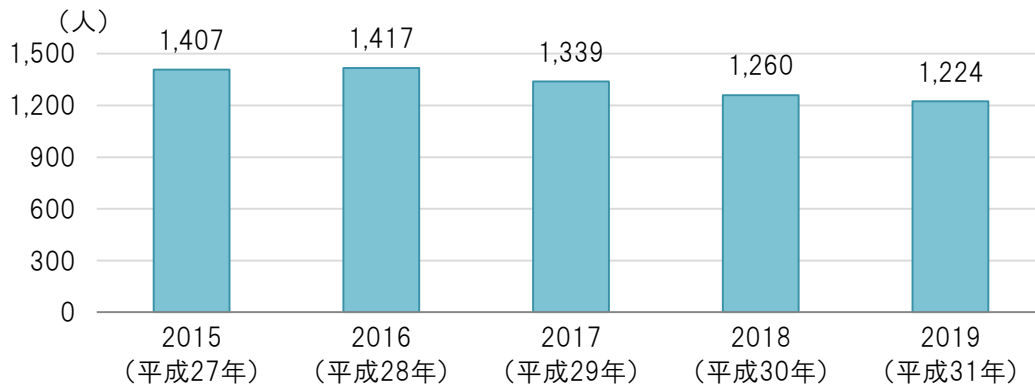
資料：江別市調べ（各年4月1日）

③ 避難行動要支援者避難支援制度登録者

市は、災害時に自力で避難することが困難な高齢者や障がいのある方などが、安全に避難したり、円滑に援助活動を受けることができるように、避難行動要支援者避難支援制度^{※36}を実施しています。

登録者数は平成 28 年までは増加傾向が続いていましたが、平成 28 年以降は減少傾向となっており、平成 31 年には 1,224 人に減少しています。

図表 12 避難行動要支援者避難支援制度登録者数の推移



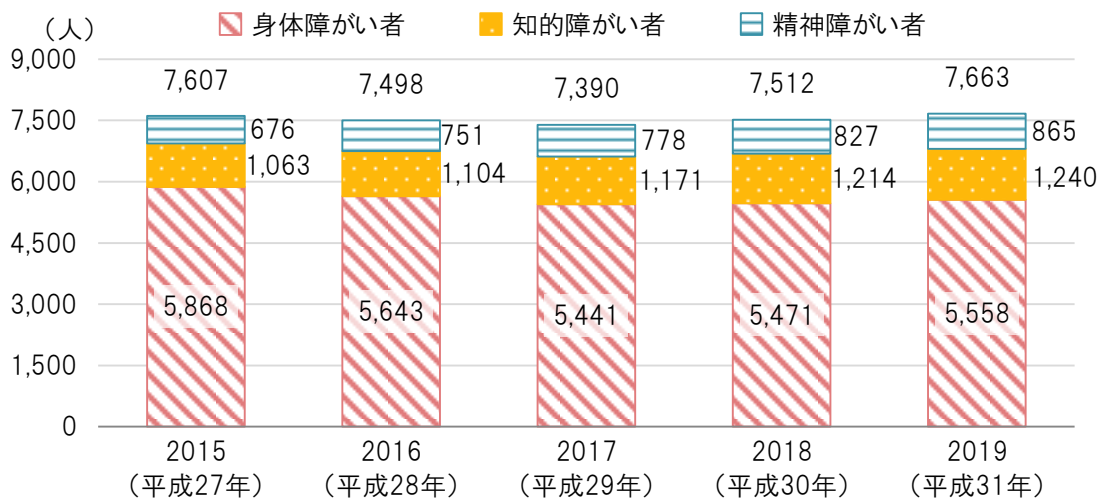
資料：江別市調べ（各年 4 月 1 日）

④ 障がいのある方（手帳交付者）

障がい者（手帳交付者）全体をみると、平成 29 年まで減少傾向となっていました、その後増加傾向となり、平成 31 年には 7,663 人となっています。

障がい種別では、平成 31 年には身体障がい者は 5,558 人で最も多く、知的障がい者は 1,240 人、精神障がい者は 865 人となっています。

図表 13 障がい者数(手帳交付者数)の推移



資料：江別市調べ（各年 4 月 1 日）

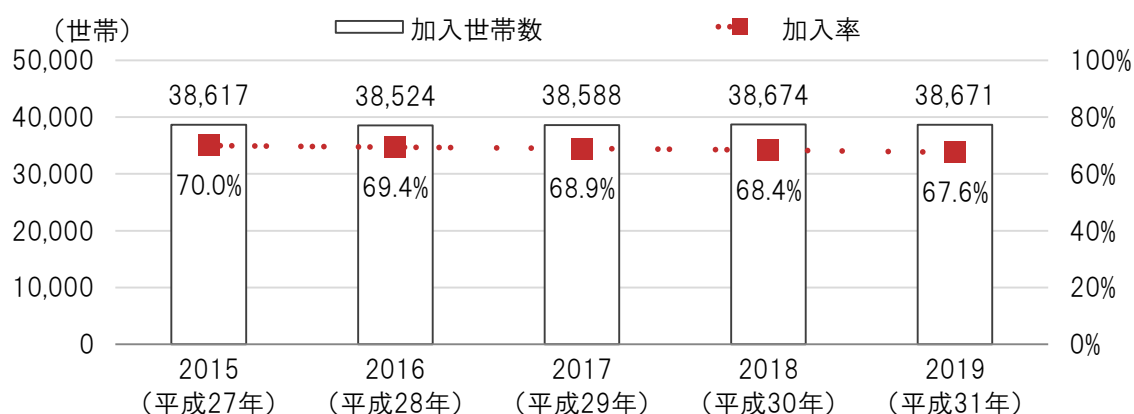
2 地域活動の現状

(1) 自治会

平成 31 年 4 月 1 日現在、市内には 162 の自治会があります。

自治会加入世帯数は平成 27 年から比較すると増加傾向である一方、加入率は減少傾向が続いています。平成 31 年には加入世帯数が 38,671 世帯、加入率は 67.6% となっています。

図表 14 自治会の加入世帯・加入率の推移



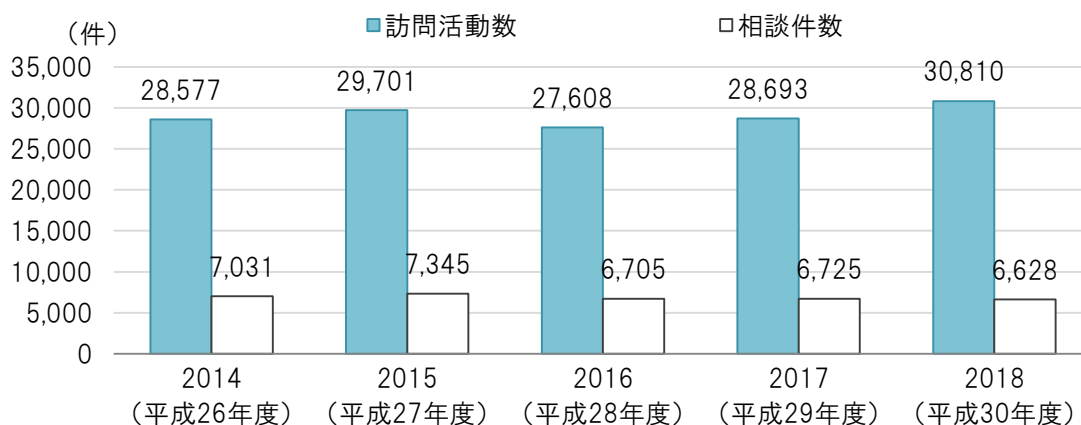
資料：江別市調べ（各年 4 月 1 日）

(2) 民生委員・児童委員

平成 31 年 4 月 1 日現在の民生委員・児童委員^{※38}数（定員数）は 248 人となっていますが、引き続き高齢化と担い手不足が深刻な状況です。

民生委員・児童委員の訪問活動数は平成 28 年度以降増加傾向で、平成 30 年度には 30,810 件となっています。相談件数は、平成 28 年度以降はおおむね横ばいで、平成 30 年度には 6,628 件となっています。

図表 15 民生委員・児童委員の訪問活動・相談件数の推移



資料：江別市調べ

(3) ボランティア団体など

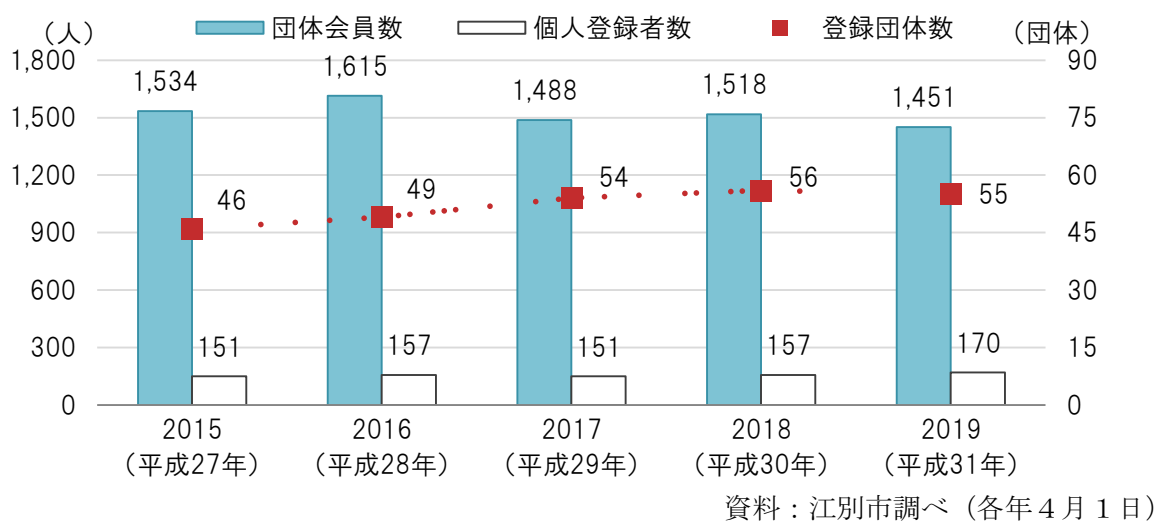
① ボランティア登録

社会福祉協議会は、ボランティアの活動拠点としてボランティアセンターを運営しており、ボランティアセンターに登録している団体がボランティア団体連絡会を構成しています。

登録団体数は、平成31年に55団体となっています。

登録団体の会員数は増減を繰り返し、平成31年には1,451人、個人登録者数は170人となっています。

図表 16 ボランティアセンターへの登録者数・登録団体数の推移

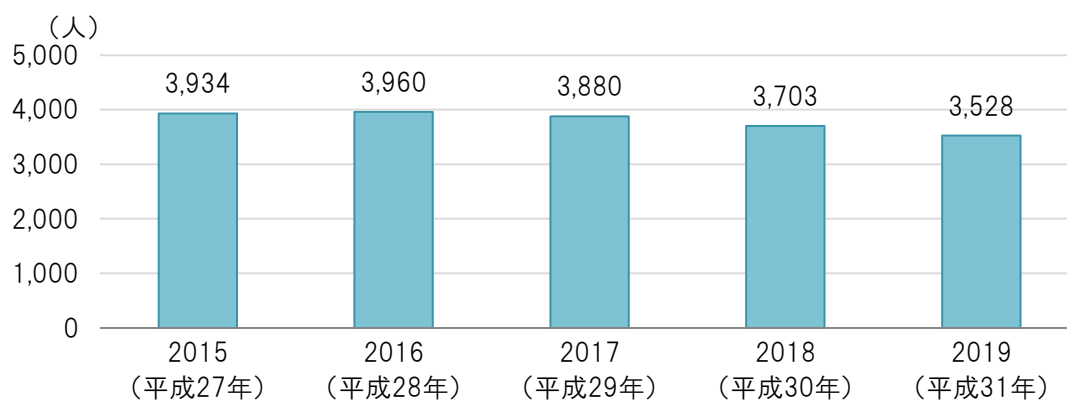


② 高齢者クラブ連合会

高齢者クラブ連合会に所属するクラブ数は、平成31年4月1日現在65クラブとなっており、おおむね横ばいの状況です。

平成28年以降は会員数の減少が続いており、平成31年には3,528人となっています。

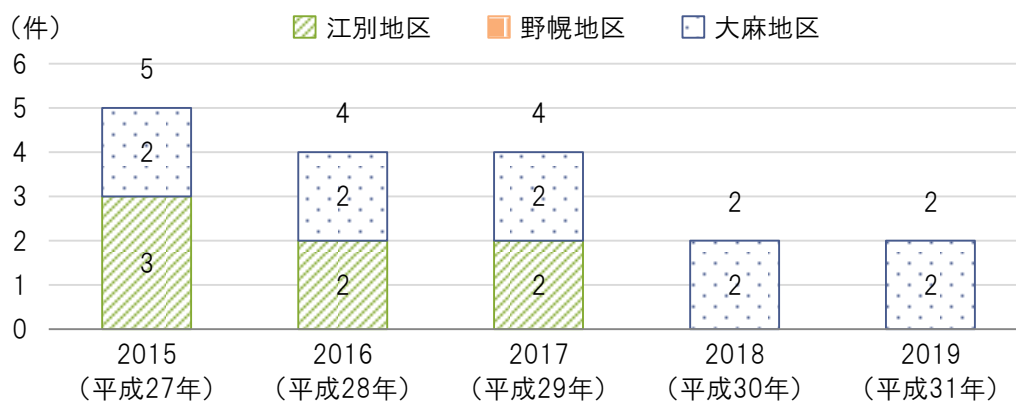
図表 17 高齢者クラブ連合会会員数の推移



③ 育児サークル

子育て中の母親と子どもを対象とした育児サークルは、平成 27 年以降、サークルの数が減少を続け、平成 30 年からは大麻地区の 2 サークルとなっています。

図表 18 育児サークル数の推移



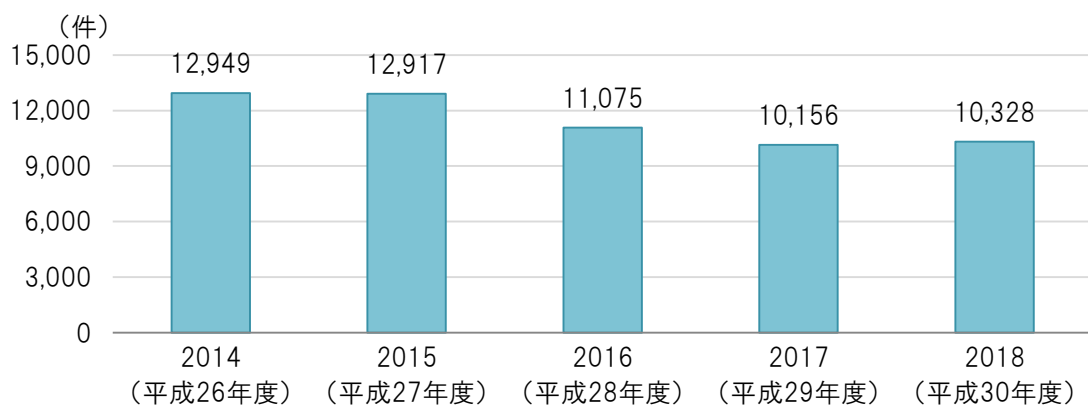
資料：江別市調べ（各年 4 月 1 日）

(4) 各種相談窓口

① 地域包括支援センター※²⁹における相談

平成 26 年度までの相談件数は大幅に増加を続けていましたが、平成 27 年度からは減少が続いており、平成 30 年度には若干増加して 10,328 件となっています。

図表 19 地域包括支援センターにおける相談件数の推移

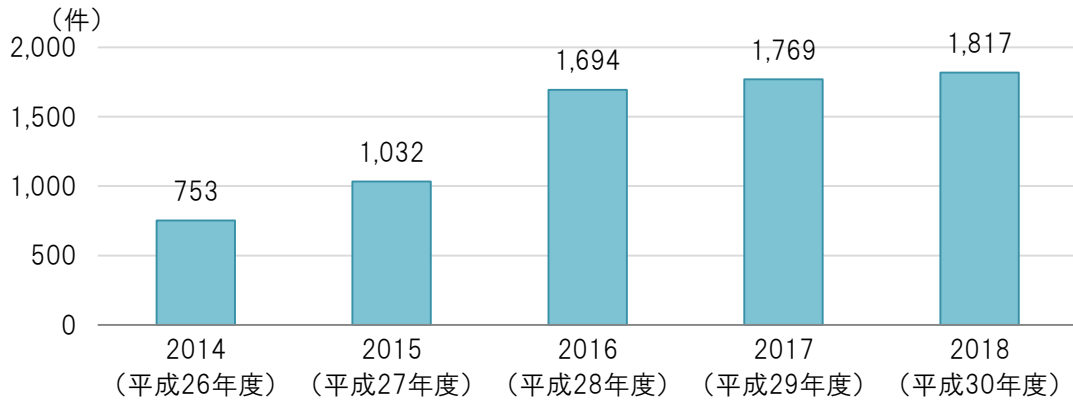


資料：江別市調べ

② 子育てに関する相談

平成 26 年度以降、子育てに関する相談件数は新たな事業の開始もあり、増加を続けており、平成 30 年度には 1,817 件となっています。

図表 20 子育てに関する相談件数の推移



資料：江別市調べ

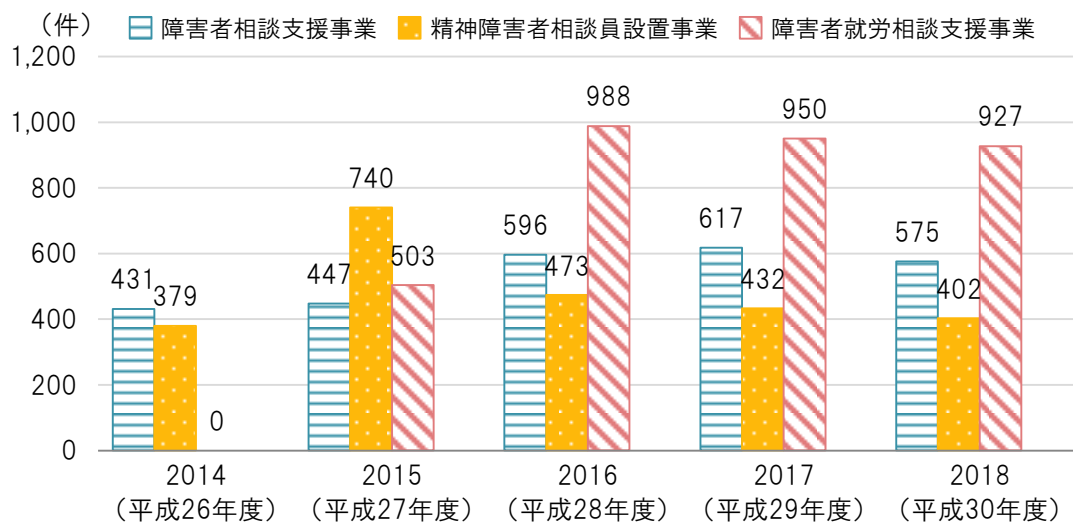
③ 障がいに関する相談

平成 26 年度以降、障害者相談支援事業^{※18}は増加傾向にありましたが、平成 30 年度は若干減少し 575 件となっています。

精神障害者相談員設置事業^{※24}は平成 27 年度以降減少傾向にあり、平成 30 年度は 402 件となっています。

障害者就労相談支援事業^{※17}は、平成 27 年 8 月から事業を開始しており、平成 30 年度は 927 件となりました。

図表 21 障がいに関する相談件数の推移

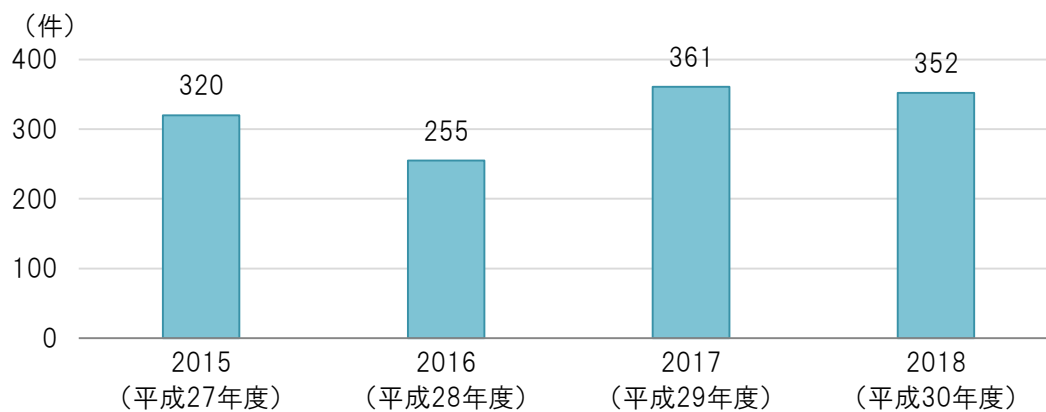


資料：江別市調べ

④ 生活困窮者自立相談支援機関における相談

平成 27 年度に開始された生活困窮者自立相談支援事業^{※21} は、新規相談件数において増減を繰り返しており、平成 30 年度には 352 件となっています。

図表 22 生活困窮者自立相談支援機関における新規相談件数の推移



資料：江別市調べ

3 地域福祉を支える基盤整備の状況

市では、高齢者、障がいのある方、子どもや子育て中の方などが、地域での生活を円滑にするための基盤を整備、確保しています。（主に公共施設や、市で設置している設備などについて掲載しています。）

都市公園の多目的トイレ^{※27}設置状況

地区公園	湯川公園・大麻中央公園・泉の沼公園	3ヶ所
運動公園	飛鳥山公園（青年センターと共有）	1ヶ所
緑道	四季のみち	1ヶ所
街区公園	かなりあ公園・はんのき公園・若葉公園・ななかまど公園・みづほ公園・おうぎまち公園	6ヶ所

資料：江別市調べ（令和元年10月1日現在）

多目的トイレ（オストメイト^{※3}対応）設置状況

洗浄流し	野幌公民館・都市と農村の交流センターえみくる・江別市立病院・江別市社会福祉協議会・道立食品加工研究センター・道立埋蔵文化財センター・道立野幌総合運動公園 3ヶ所・道立野幌森林公園自然ふれあい交流館・JR 江別駅・JR 高砂駅・JR 野幌駅・江別第一小学校・江別第二小学校・江別太小学校・江別第一中学校	17ヶ所
簡易式	道立図書館・JR 大麻駅（2ヶ所）	3ヶ所
災害時のみ	江別高等学校（簡易式）・大麻高等学校・野幌高等学校	3ヶ所

資料：江別市調べ（令和元年10月1日現在）

音響式信号機^{※4}、高齢者等感応式信号機^{※9}の設置状況

音響式信号機	22ヶ所	高齢者等感応式信号機	19ヶ所
--------	------	------------	------

資料：江別市調べ（令和元年10月1日現在）

相談機能のある窓口

主な相談窓口	江別市役所 子育て世代サポートえべつ ^{※12} （保健センター ^{※37} ・子育て支援室） 子ども発達支援センター ^{※13} ・地域包括支援センター 子育て支援センター ^{※11} 障がい者支援センター ^{※16} ・えべつ障がい者しごと相談室すてら ^{※2} くらしサポートセンターえべつ ^{※6} ・江別市社会福祉協議会 江別保健所など
--------	--

資料：江別市調べ（令和元年10月1日現在）

JR 駅、駅周辺歩道などの整備事業

場所	事業名	事業内容
大麻駅	JR 駅バリアフリー※35 化事業	エスカレーター(車椅子対応) 4 基
		多目的トイレ 2ヶ所
江別駅	JR 駅バリアフリー化事業	エレベーター 2 基 (車椅子対応)
		多目的トイレ 1ヶ所
		スロープ 2ヶ所・自動ドア 2ヶ所
野幌駅	江別の顔づくり事業	エレベーター 2 基 (車椅子対応)
		エスカレーター 2 基
		多目的トイレ 1ヶ所
高砂駅通り歩道橋	高砂駅通り歩道橋整備事業	エレベーター 2 基 (車椅子対応)
		誘導ブロック※40 設置
高砂駅 (鉄西線)	高砂駅周辺整備事業	誘導ブロック設置
		身障者用停車スペース 1 台
兵村 14 丁目通り	兵村 14 丁目通り歩道整備事業	段差解消・誘導ブロック設置
大麻東駅通り	大麻東駅通り歩道整備事業	段差解消・誘導ブロック設置
江別駅跨線人道橋	江別駅跨線人道橋整備工事	エレベーター 2 基(車椅子・自転車対応)
		盲導鈴、防犯カメラ・ブザー設置
		誘導ブロック設置
東西グリーンモール	江別の顔づくり事業	自転車歩行者道・誘導ブロック設置
天徳寺グリーンモール	江別の顔づくり事業	歩道拡幅・誘導ブロック設置
旭通	江別の顔づくり事業	誘導ブロック設置・段差解消
野幌駅北口駅前広場	江別の顔づくり事業	広場再整備・誘導ブロック設置・ロードヒーティング設置
鉄西線	江別の顔づくり事業	歩道拡幅・誘導ブロック設置・段差解消
自由通路	江別の顔づくり事業	自転車歩行者道・誘導ブロック設置・ロードヒーティング設置
コミュニティ道路 1	江別の顔づくり事業	歩道拡幅・誘導ブロック設置・段差解消
野幌駅南通	江別の顔づくり事業	道路拡幅・誘導ブロック設置・段差解消
野幌駅南口駅前広場	江別の顔づくり事業	広場整備・誘導ブロック設置・ロードヒーティング設置
1 号線道路	江別の顔づくり事業	歩道拡幅・誘導ブロック設置・段差解消
コミュニティ道路 2	江別の顔づくり事業	歩道拡幅・誘導ブロック設置・段差解消
8 丁目通	江別の顔づくり事業	新設・誘導ブロック設置・段差解消

資料：江別市調べ（令和元年 10 月 1 日現在）

住居などの整備状況（道営・市営）

シルバーハウジング※20	60 戸	道営サンゴールドヴィラ
単身向け市営住宅▲	234 戸	中央 33 戸、あけぼの 122 戸、新栄 66 戸、弥生 13 戸

資料：江別市調べ（令和元年 10 月 1 日現在）

▲60 歳以上、障がいのある方、生活保護受給者などの場合に入居資格があります。

江別地区

凡 例

- 主な相談窓口
- 多目的トイレ*27
- 多目的トイレ (オストメイト*3 対応)
- 音響式信号機*4
- 高齢者等 音響式信号機*9
- 感知式信号機*20
- シルバーハウジング
- 単身向け市営住宅
- 洗淨流し 簡易式
- 誘導ブロッック*40

主な相談窓口	町名
江別市役所	高砂町6
保健センター	若草町6
江別第一地域包括支援センター	若草町6
江別第二地域包括支援センター	上江別東町7
子育て支援センターすくすく	弥生町18
子育て支援センターどんぐり	緑町西1丁目
子育て支援センターまんまカフェ	上江別東町15

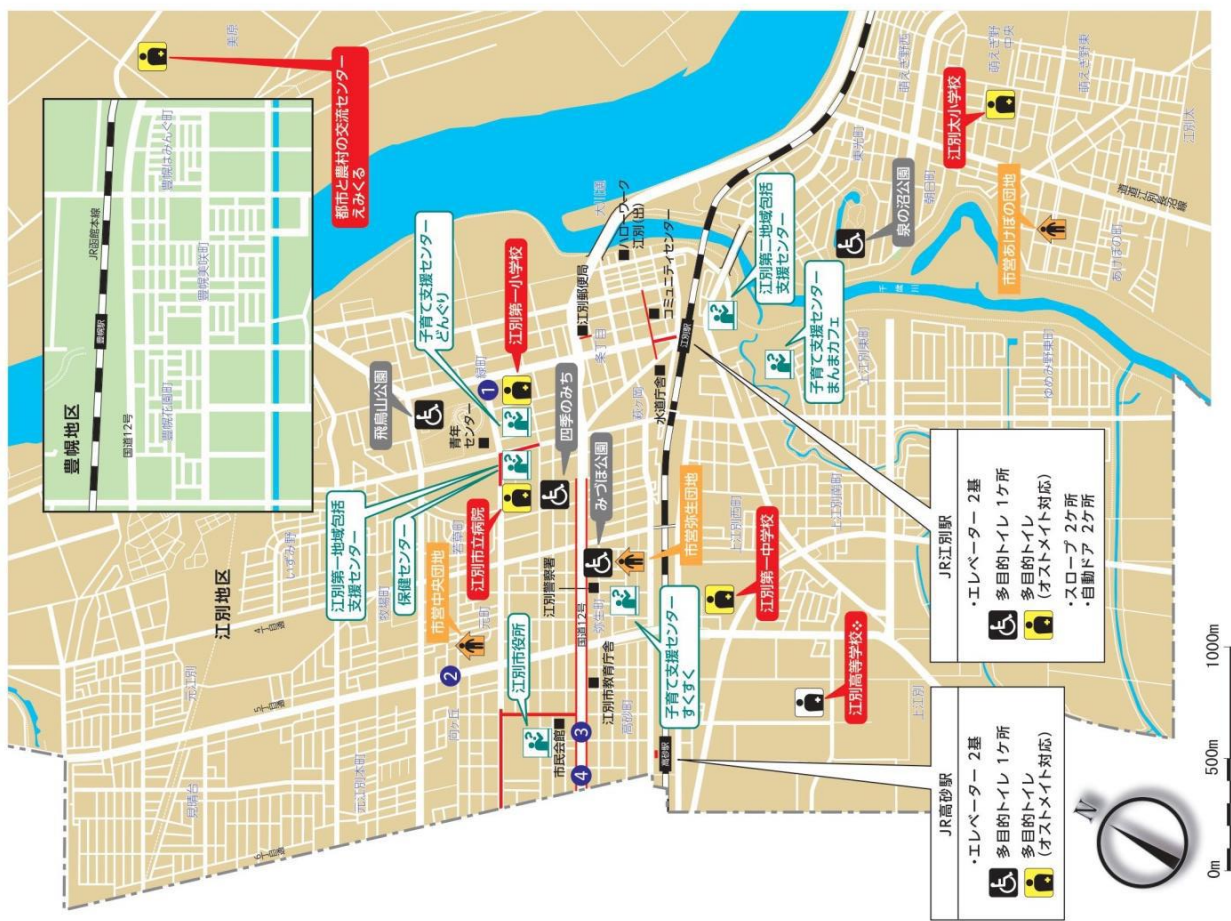
都市公園の多目的トイレ	町名
泉の沼公園	東光町31
飛鳥山公園	緑町西2丁目11
四季のみち	若草町13
みづほ公園	弥生町22

単身向け市営住宅	町名
市営中央団地	元町
市営あけぼの団地	あけぼの町
市営弥生団地	弥生町

多目的トイレ(オストメイト対応)	町名	備考
都市と農村の交流センターえみくる	美原1445	洗淨流し
江別市立病院	若草町6	洗淨流し
江別高等学校	上江別444	簡易式
JR江別駅	萩ヶ岡25	洗淨流し
JR高砂駅	高砂町50	洗淨流し
江別第一小学校	緑町西1丁目37	洗淨流し
江別太小学校	朝日町25-2	洗淨流し
江別第一中学校	上江別西町40	洗淨流し

*印は災害時のみ対応

高齢者等感知式信号機	
番号	町名
①	緑町西2丁目
②	元町11
③	高砂町35
④	高砂町18



野幌地区

凡 例

	主な相談窓口
	多目的トイレ ^{*27}
	多目的トイレ (オストメイト ^{*3} 対応)
	音響式信号機 ^{*4}
	高齢者等
	感応式信号機 ^{*9}
	誘導アップ ^{*40}
	単身向け市営住宅

主な相談窓口	町名
子ども発達支援センター	錦町14
江別市社会福祉協議会	錦町14
くらしサポートセンターえべつ	錦町14
野幌第一地域包括支援センター	中央町31
子育てひろば「ぼこあぼこ」	野幌町10
子育て支援センター「ぼろっこ」	野幌住吉町37
子育て支援センターわかば	幸町8
あすか就労継続支援施設	野幌若葉町4
えべつ障がい者しごと相談室	錦町3
都市公園の多目的トイレ	野幌代々木町15
湯川公園	野幌美町19
かなりあ公園	中央町8
ななかまど公園	野幌若葉町57

単身向け市営住宅	町名
市営新米団地	錦町
多目的トイレ(オストメイト対応)	
野幌公民館	野幌町113-6
野幌高等学校	元野幌740
道立理蔵文化財センター	西野幌685
道立野幌総合運動公園	西野幌481
〃	〃
〃	〃
〃	〃
JR野幌駅	野幌町94
道立野幌森林公園自然ふれあい交流館	西野幌685-1
江別市社会福祉協議会	錦町14
江別第二小学校	野幌代々木町39

※印は災害時のみ対応

音響式信号機設置地点

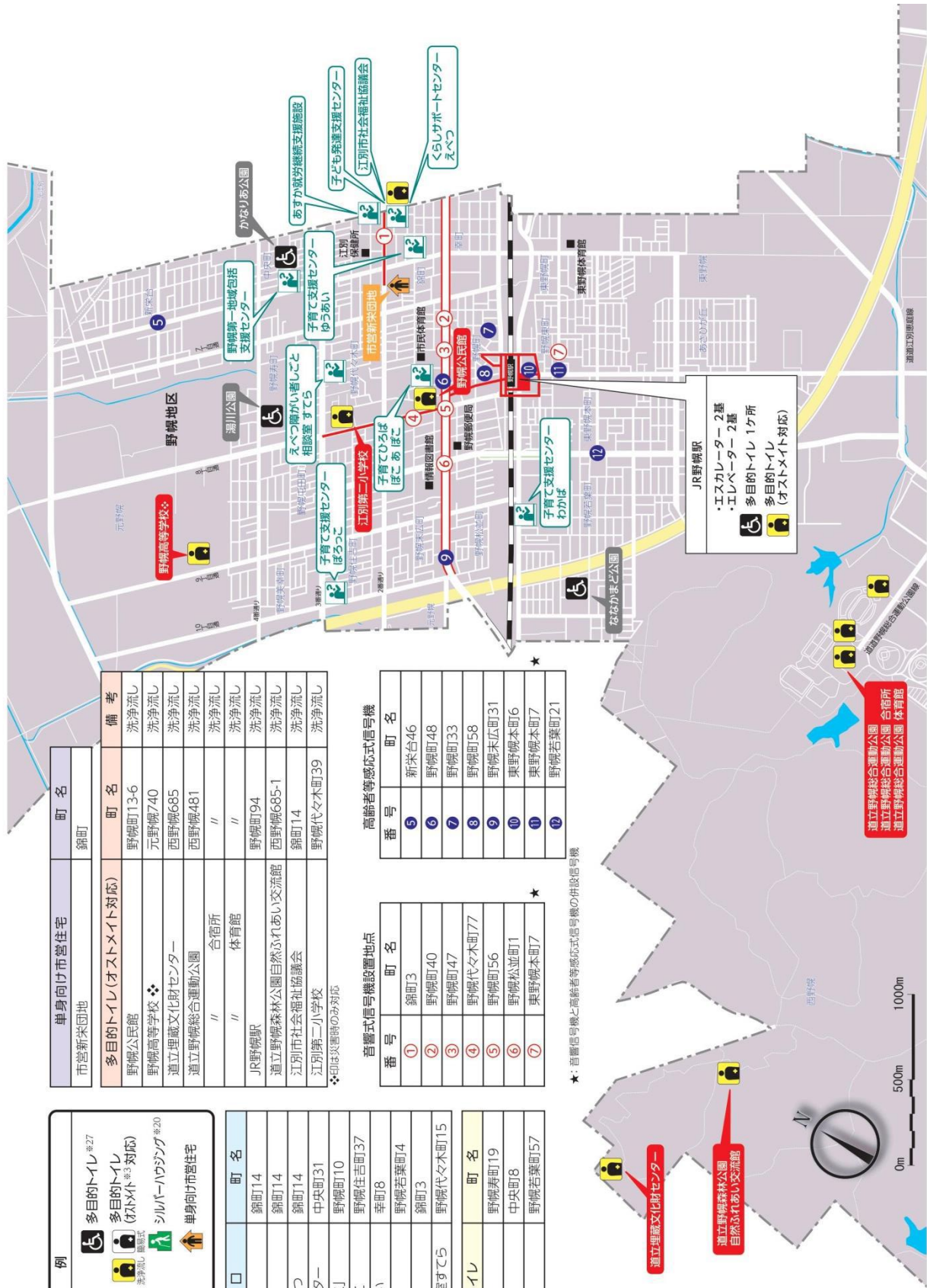
番号	町名
①	錦町3
②	野幌町40
③	野幌町47
④	野幌代々木町77
⑤	野幌町56
⑥	野幌松並町1
⑦	東野幌本町7

★：音響信号機と高齢者等感応式信号機の併設信号機

高齢者等感応式信号機

番号	町名
⑤	新米台46
⑥	野幌町48
⑦	野幌町33
⑧	野幌町58
⑨	野幌未広町31
⑩	東野幌本町6
⑪	東野幌本町7
⑫	野幌若葉町21

★



4 第3期地域福祉計画の評価

第3期計画では、第2期から続いている基本理念「お互いさま、みんなで支えあう地域づくり」のもと、各施策を展開してきました。

平成30年度の評価結果では、「かなり評価できる（評価4）」が32.5%、「普通に評価できる（評価3）」が67.5%であり、全ての事業が計画どおりに進んでいる状況です。

しかし、平成25年度の第3期計画策定時の評価結果と比較すると、「普通に評価できる（評価3）」は15ポイント増加であるものの、「非常に評価できる（評価5）」の該当事業がなく、「かなり評価できる（評価4）」も9ポイント減少と、全体をみると高評価が減少していることがわかります。

そのため、計画どおりの進捗で満足せず、今後は各事業で「非常に評価できる」「かなり評価できる」を目指し、より市民に満足していただけるような事業推進が重要となります。

基本目標1 支えあいの仕組みづくり

多様な生活課題にきめ細かく対応するため、相談支援体制や情報提供の充実を図ってきました。

市民からは福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実や福祉サービスに関する情報提供が特に求められており、「福祉サービスなどに係る情報提供の充実」ではかなり評価されているものが2割に満たず、今後は包括的な相談支援体制を整えることが重要となります。

基本目標2 地域を支える担い手やネットワークづくり

新たな担い手の掘り起こしや育成を図るため、人材育成事業の推進や自治会・ボランティア団体などへの活動支援、活動団体のネットワークづくりに取り組んできました。

担い手の掘り起こしの推進については、アンケート調査結果から、「これまで地域活動に参加したことがないが、機会があれば参加したい」という市民も少なからずいることから、更なる取組の強化が求められます。

「ボランティア団体などの活動促進」は普通に評価されている一方、かなり評価できるものは3割程度であり、今後もよりきめ細やかな情報提供に取り組むことが必要とされています。

基本目標3 地域福祉を推進する環境づくり

「快適に暮らせる環境づくり」は、「かなり評価できる」が3割に満たない状況です。

アンケート調査結果からは、災害時の救援体制の整備は行政主導で取り組むことが求められていることから、高齢者や障がいのある方に対する災害時の避難支援や、災害ボランティア活動の充実などが必要とされています。

また、同じくアンケート調査結果では、交通の利便性の向上も求められていることから、移動支援などの充実が必要とされています。

平成 30 年度 取組状況

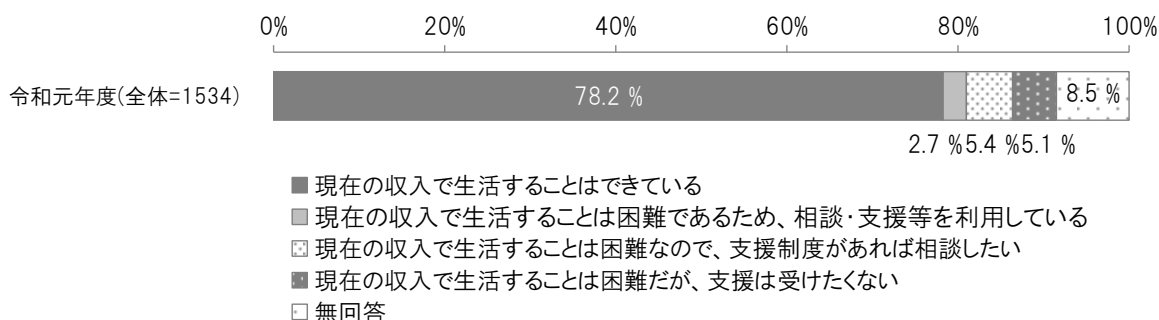
基本目標	基本施策	主要施策	事業数	評価				
				5. 非常に評価できる	4. かなり評価できる	3. 普通に評価できる	2. 少し評価できる	1. ほとんど評価できない
基本目標1 支えあいの仕組みづくり								
1 関係機関による相談支援体制の充実	①相談窓口の充実	18	0	9	9	0	0	
		11	0	4	7	0	0	
		15	0	2	13	0	0	
		1	0	1	0	0	0	
	小計		45	0 0.0%	16 35.6%	29 64.4%	0 0.0%	0 0.0%
	2 福祉サービスなどに係る情報提供の充実	①サービスなどに係る情報提供の充実	15	0	3	12	0	0
		②苦情相談などの周知	7	0	1	6	0	0
		③権利擁護の体制整備	5	0	1	4	0	0
		小計		27	0 0.0%	5 18.5%	22 81.5%	0 0.0%
	合計		72	0 0.0%	21 29.2%	51 70.8%	0 0.0%	0 0.0%
基本目標2 地域を支える担い手やネットワークづくり								
3 福祉を担う人材などの確保・育成	①担い手の掘り起こしの推進	5	0	0	5	0	0	
	②担い手の人材育成	7	0	4	3	0	0	
	③企業などにおける地域貢献活動への働きかけ	2	0	1	1	0	0	
	小計		14	0 0.0%	5 35.7%	9 64.3%	0 0.0%	0 0.0%
4 地域における福祉活動の促進	①自治会による地域福祉活動の環境づくり	6	0	3	3	0	0	
	②民生委員・児童委員の活動促進への支援	4	0	0	4	0	0	
	③災害時に自力での避難が困難な方への支援体制の整備	6	0	3	3	0	0	
	小計		16	0 0.0%	6 37.5%	10 62.5%	0 0.0%	0 0.0%
5 ボランティア団体などの活動促進	①ボランティア団体などの情報発信	4	0	2	2	0	0	
	②ボランティア団体などの活動基盤強化	13	0	3	10	0	0	
	③ボランティア団体と自治会などの地域団体との連携促進	5	0	2	3	0	0	
	小計		22	0 0.0%	7 31.8%	15 68.2%	0 0.0%	0 0.0%
合計		52	0 0.0%	18 34.6%	34 65.4%	0 0.0%	0 0.0%	
基本目標3 地域福祉を推進する環境づくり								
6 支えあい意識醸成と環境づくり	①地域のサロン・集いの場づくり	16	0	7	9	0	0	
	②青少年の福祉体験の促進	7	0	1	6	0	0	
	③大学との連携促進	3	0	3	0	0	0	
	小計		26	0 0.0%	11 42.3%	15 57.7%	0 0.0%	0 0.0%
7 快適に暮らせる生活環境づくり	①バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進	13	0	3	10	0	0	
	②地域で安心して暮らせる環境整備	6	0	2	4	0	0	
	小計		19	0 0.0%	5 26.3%	14 73.7%	0 0.0%	0 0.0%
合計		45	0 0.0%	16 35.6%	29 64.4%	0 0.0%	0 0.0%	
総合計		169	0 0.0%	55 32.5%	114 67.5%	0 0.0%	0 0.0%	

5 市民アンケート調査結果概要

(1) 社会的支援が必要な方の状況

世帯の家計状況から生活が困窮していると想定される回答者は、1割強となっています。

図表 23 世帯の家計状況について(問8)



普段の外出状況が「普段は家において、外出することもあるが、家族以外の人と会話することがほとんどない」「自室からは出るが、家からはほとんど出ない」「自室からほとんど出ない」に該当し、かつ現状までの経過年月が6ヶ月以上の回答者の合計は、全体の14.5%となっています。年齢別では「60歳以上」が約8割を占めており、就業状態別では「無職（年金生活）」が全体と比べて高い割合となっています。

図表 24 6ヶ月以上外出頻度が低い人の属性(問11と問12)

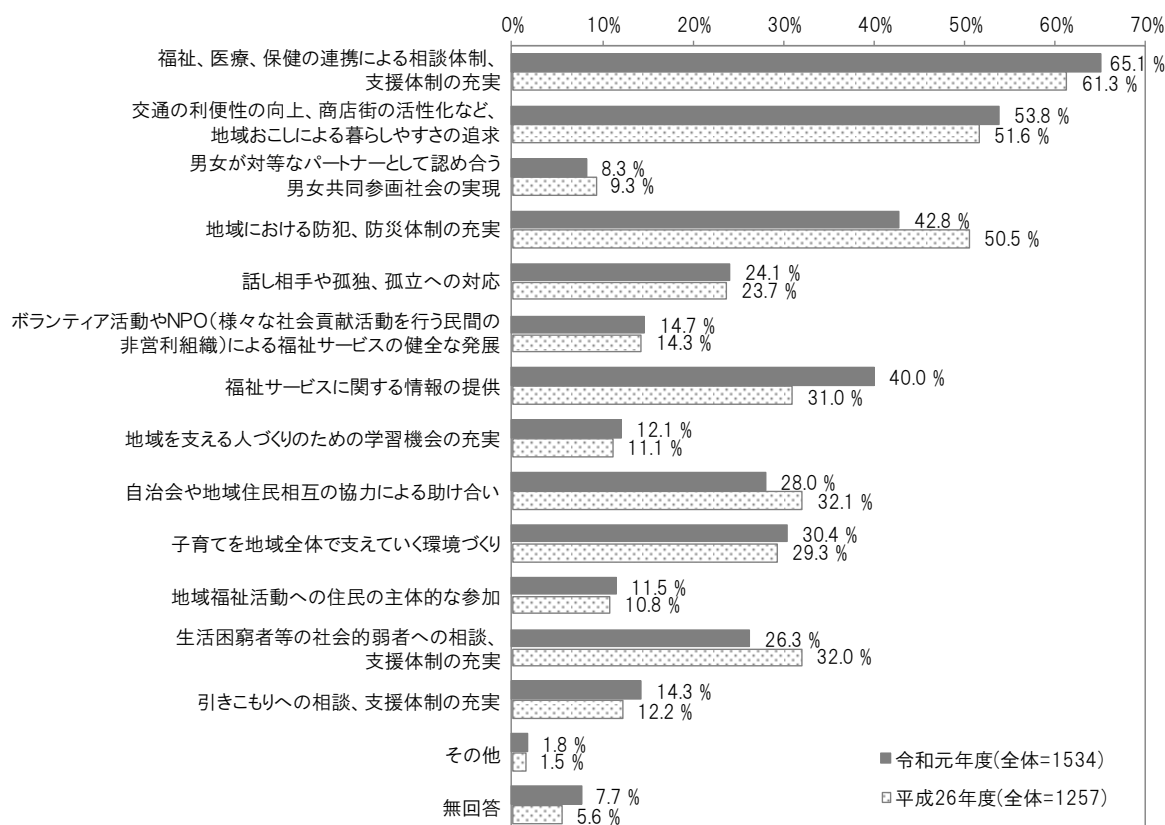
回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	6ヶ月以上外出頻度が低い人/年齢						
		6ヶ月以上 外出頻度が低い人 /全体	29歳 以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳 以上	
回答者数(人)	1534	222	4	10	11	20	175	
性別	男性	42.4	41.4	50.0	40.0	18.2	40.0	43.4
	女性	56.6	58.6	50.0	60.0	81.8	60.0	56.6
	無回答	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就業状態、 職業	自営業	4.2	1.4	0.0	0.0	0.0	5.0	1.1
	正社員	18.9	2.3	0.0	20.0	0.0	10.0	0.6
	契約社員	4.6	0.9	0.0	0.0	9.1	0.0	0.6
	パート、アルバイト	16.4	2.7	0.0	0.0	18.2	5.0	1.7
	公務員	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家事専業(主婦・主夫を含む)	13.9	21.6	25.0	40.0	45.5	30.0	17.1
	学生	2.8	0.5	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	1.4	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
	無職(年金生活)	30.9	58.6	0.0	0.0	9.1	5.0	73.1
	無職(求職活動中)	1.2	4.1	50.0	10.0	0.0	30.0	0.0
	無職(求職活動していない)	1.8	7.2	0.0	30.0	18.2	15.0	4.6
無回答	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
家族構成	一人暮らし	22.0	24.3	25.0	0.0	0.0	10.0	29.1
	夫婦二人の世帯	35.1	37.4	0.0	20.0	9.1	30.0	42.3
	二世帯世帯(夫婦と子)	27.5	17.1	0.0	60.0	45.5	45.0	9.7
	三世帯世帯(親と子と孫)	4.0	5.9	25.0	10.0	0.0	0.0	6.3
	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	7.7	11.3	0.0	10.0	45.5	15.0	8.6
	その他	2.0	2.3	25.0	0.0	0.0	0.0	2.3
	無回答	1.6	1.8	25.0	0.0	0.0	0.0	1.7

※6ヶ月以上外出頻度が低い人/全体のみ、全体との差を比較しています。

住み慣れた地域で安心して暮らしていくために大切なことは、「福祉、医療、保健の連携による相談体制、支援体制の充実」が最も多く、前回調査よりも多くなっています。

前回調査と比較して大きく伸びているものは「福祉サービスに関する情報の提供」で、減少しているものは「地域における防犯、防災体制の充実」となっています。

図表 25 住み慣れた地域で安心して暮らしていくために大切なこと(問 34)



※前回調査とは表現が異なる選択肢があります。

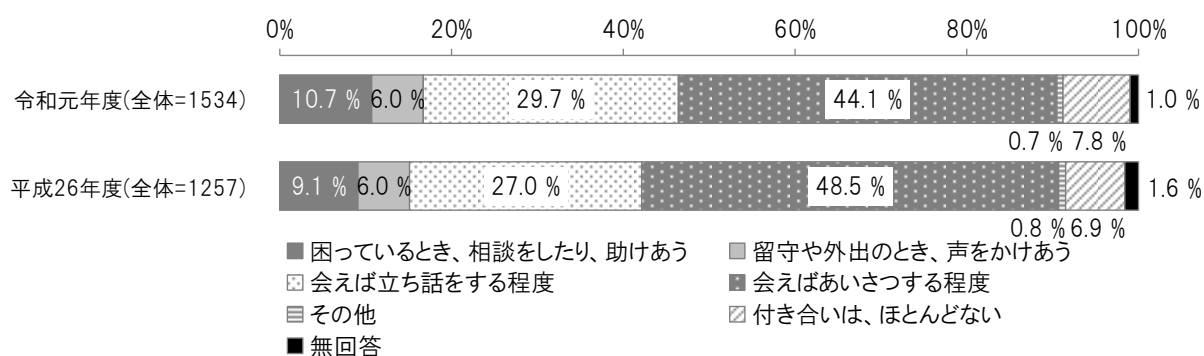
(2) 近所付き合いについて

① 近所とのつながりや満足度

近所とは「会えばあいさつする程度」が最も多いものの、前回調査よりは約4ポイント少なくなっています。次いで、「会えば立ち話をする程度」が多く、前回調査よりも多くなっています。

家族構成別では、三世帯世帯、ひとり親と子どもの世帯で「会えばあいさつする程度」が全体と比較して多くなっています。

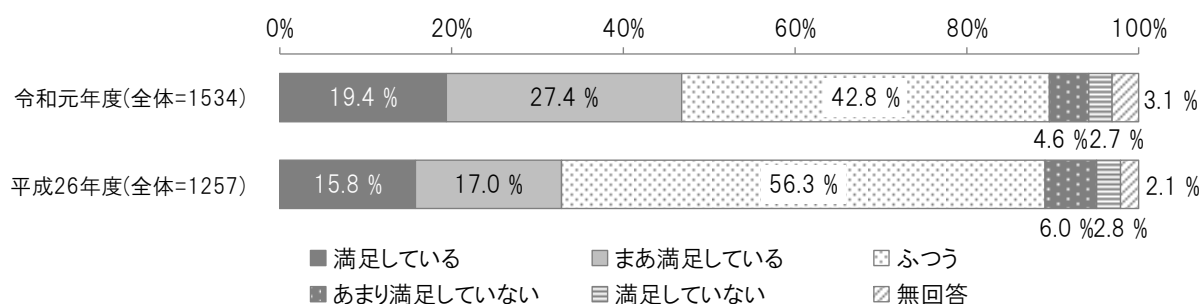
図表 26 近所との付き合い方(問 15)



回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	家族構成					
		一人暮らし	夫婦二人の世帯	二世帯世帯(夫婦と子)	三世帯世帯(親と子と孫)	ひとり親と子どもの世帯(父子、母子)	その他
回答者数(人)	1534	338	539	422	62	118	30
困っているとき、相談をしたり、助けあう	10.7	13.9	11.3	10.0	3.2	6.8	3.3
留守や外出のとき、声をかけあう	6.0	7.1	7.1	4.7	3.2	1.7	6.7
会えば立ち話をする程度	29.7	28.1	36.4	27.7	24.2	22.0	20.0
会えばあいさつする程度	44.1	35.2	39.1	50.0	64.5	57.6	53.3
その他	0.7	1.5	0.6	0.2	0.0	0.0	3.3
付き合いは、ほとんどない	7.8	13.0	4.5	6.9	3.2	11.9	13.3
無回答	1.0	1.2	1.1	0.5	1.6	0.0	0.0

近所付き合いの満足度は、前回調査よりも「満足している」「まあ満足している」を合計した満足している割合が約14ポイント多くなっています。

図表 27 近所付き合いの満足度(問 20)

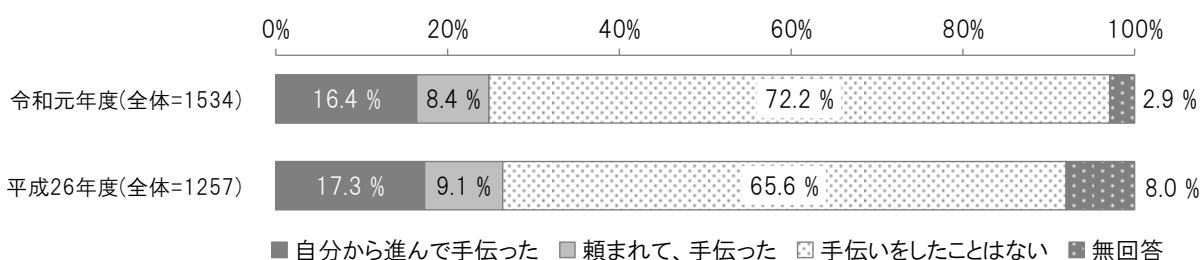


② 近所に住んでいる高齢者などへの手伝い状況

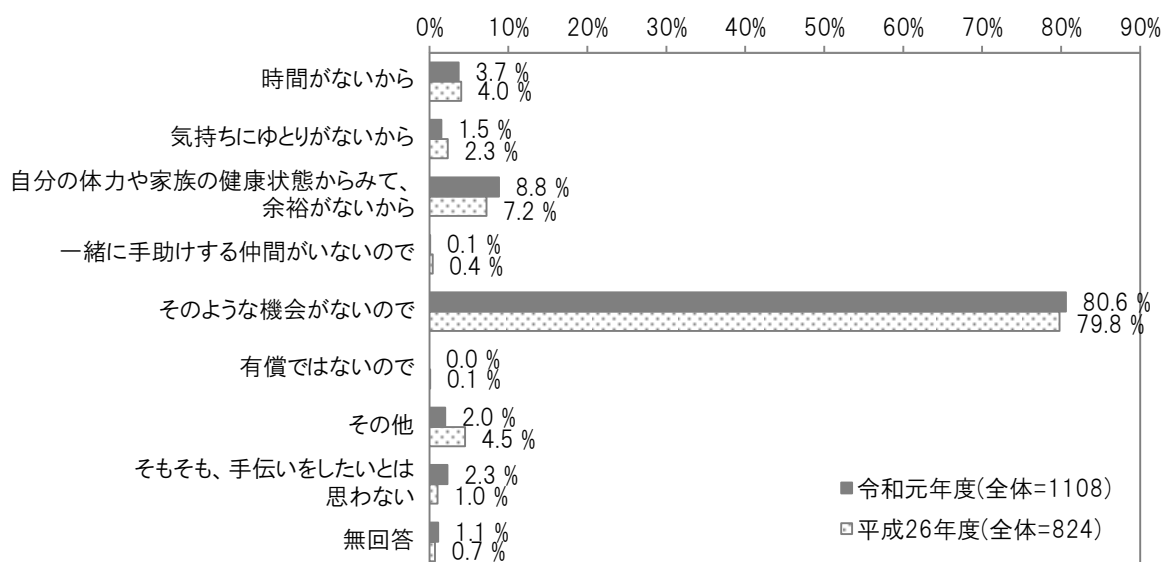
近所に住んでいる高齢者などに対して「手伝いをしたことはない」が大半を占めており、前回調査と比較して約7ポイント多くなっています。

「手伝いをしたことはない」の具体的な理由は、「そのような機会がないので」が前回同様に特に多くなっています。

図表 28 近所に住んでいる高齢者などへの手伝い状況(問 17)

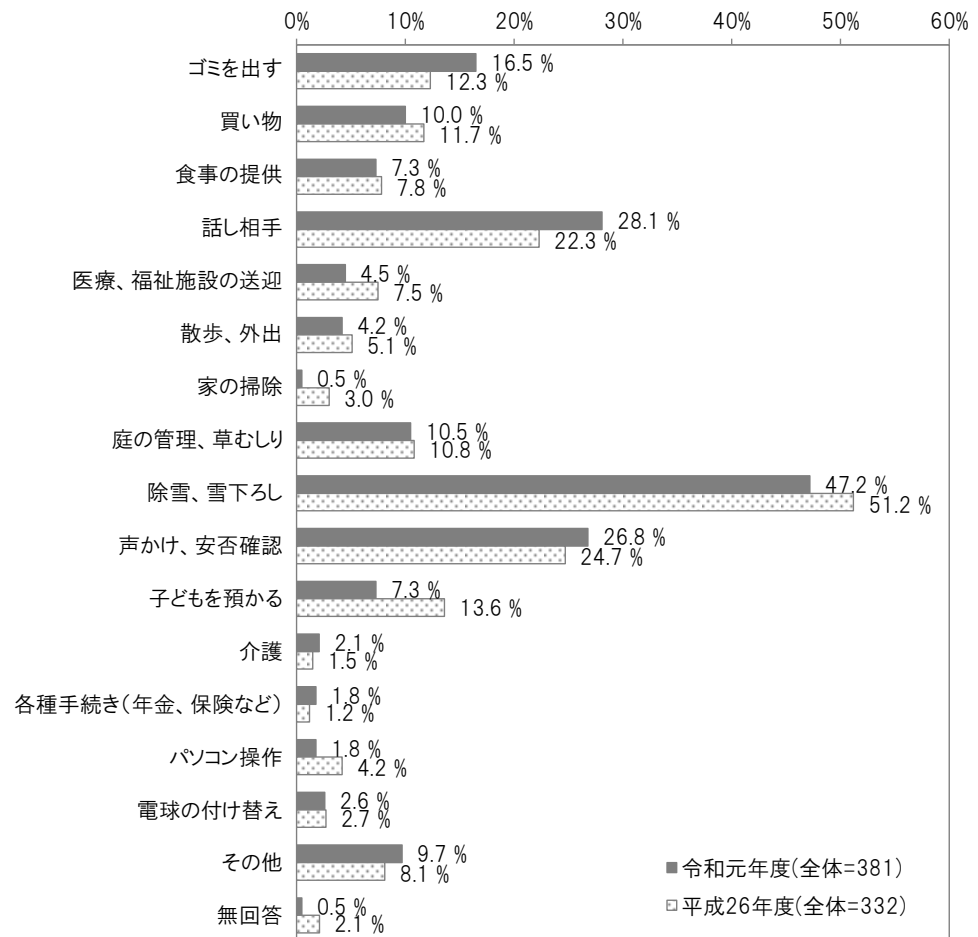


図表 29 手伝いをしない理由(問 19)



手伝いをした場合の内容は、「除雪、雪下ろし」が最も多く、特に男性の50・60歳代が全体と比べて高い割合となっています。また、前回調査から大きく増えているものとして「話し相手」や「ゴミを出す」があり、女性の60歳代以上が全体と比べて高い割合となっています。

図表 30 手伝いをした場合の内容(問 18)

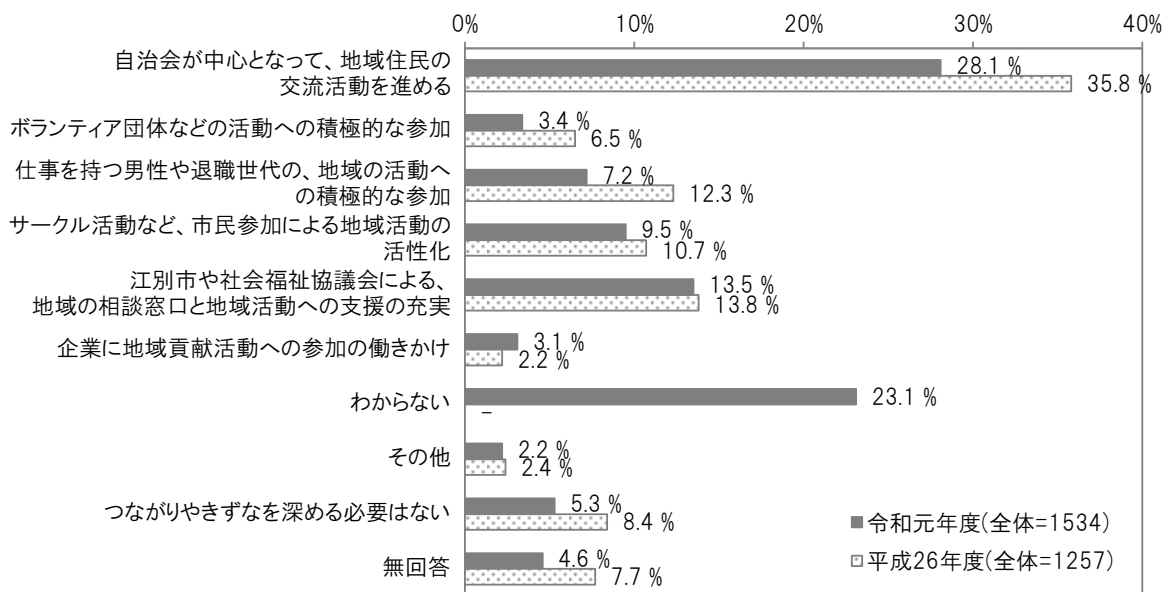


回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	381	3	8	12	28	42	63	7	10	32	30	61	75
ゴミを出す	16.5	0.0	0.0	25.0	0.0	9.5	19.0	0.0	10.0	9.4	13.3	24.6	26.7
買い物	10.0	0.0	12.5	16.7	0.0	4.8	3.2	14.3	0.0	3.1	13.3	19.7	16.0
食事の提供	7.3	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	6.3	0.0	10.0	12.5	3.3	6.6	16.0
話し相手	28.1	0.0	37.5	41.7	17.9	11.9	25.4	71.4	10.0	15.6	20.0	37.7	38.7
医療、福祉施設の送迎	4.5	0.0	0.0	0.0	3.6	4.8	4.8	0.0	10.0	6.3	3.3	4.9	5.3
散歩、外出	4.2	0.0	12.5	16.7	3.6	2.4	6.3	0.0	0.0	0.0	3.3	1.6	4.0
家の掃除	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
庭の管理、草むしり	10.5	0.0	0.0	8.3	3.6	21.4	22.2	0.0	10.0	0.0	3.3	3.3	14.7
除雪、雪下ろし	47.2	66.7	62.5	58.3	75.0	78.6	58.7	14.3	30.0	46.9	46.7	26.2	29.3
声かけ、安否確認	26.8	0.0	25.0	16.7	17.9	16.7	33.3	14.3	10.0	25.0	20.0	34.4	32.0
子どもを預かる	7.3	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	3.2	0.0	30.0	31.3	16.7	6.6	2.7
介護	2.1	33.3	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	5.3
各種手続き(年金、保険など)	1.8	0.0	0.0	0.0	3.6	2.4	1.6	0.0	0.0	3.1	3.3	1.6	1.3
パソコン操作	1.8	0.0	0.0	0.0	3.6	4.8	4.8	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0
電球の付け替え	2.6	0.0	0.0	8.3	3.6	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
その他	9.7	0.0	0.0	16.7	10.7	14.3	7.9	14.3	10.0	15.6	13.3	9.8	5.3
無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3

③ 近所とのつながりを深めるために必要なこと

近所の住民同士のつながりを深めるためには、「自治会が中心となって、地域住民の交流活動を進める」ことが最も必要とされています。

図表 31 住民同士のつながりを深めるために必要なこと(問 29)



※前回調査では「わからない」という選択肢がありません。

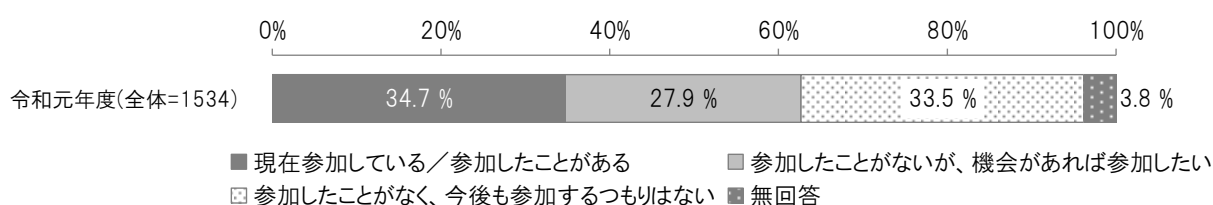
(3) 地域活動やボランティアについて

① 地域活動などの状況

地域活動へ「現在参加している／参加したことがある」が最も多くなっています。「参加したことがないが、機会があれば参加したい」と合計すると6割以上の方に参加意向があることとなります。特に50歳代の男性、29歳以下の女性が全体と比べて参加意向の割合が高くなっています。

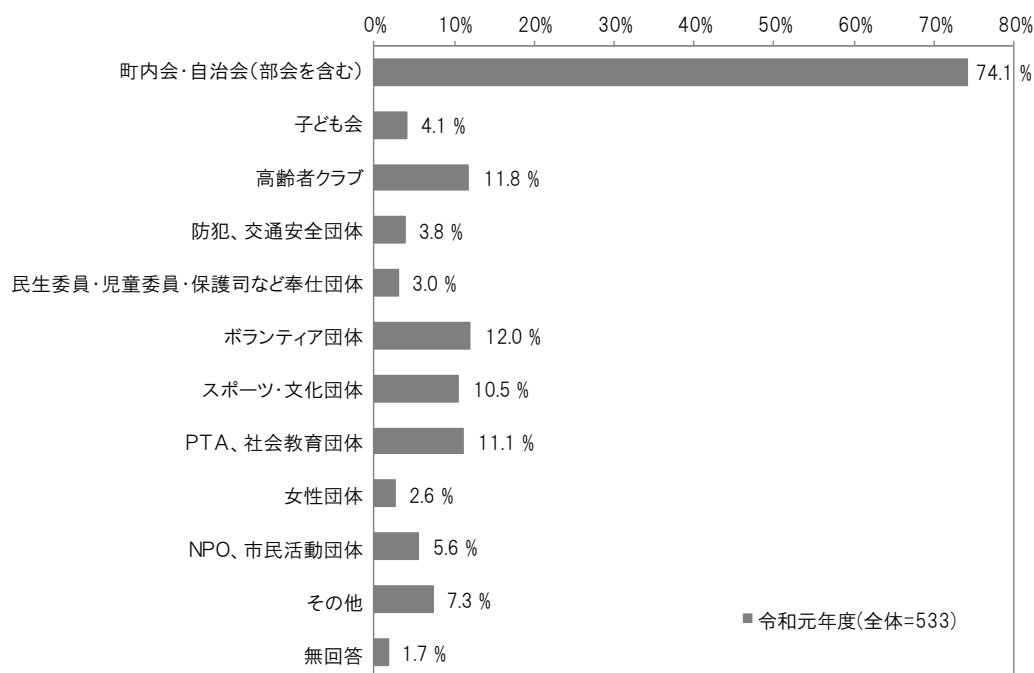
「現在参加している／参加したことがある」場合の活動団体は、「町内会・自治会」が特に多く、60歳以上の男性が全体と比べて高い割合となっています。

図表 32 地域活動などへの参加状況(問 21)



回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	1534	37	50	88	99	147	224	64	77	121	141	186	268
現在参加している／ 参加したことがある	34.7	27.0	20.0	27.3	21.2	42.2	45.5	17.2	24.7	35.5	29.8	40.3	38.8
参加したことがないが、 機会があれば参加したい	27.9	29.7	34.0	30.7	41.4	29.3	20.1	45.3	35.1	31.4	33.3	27.4	16.8
参加したことがなく、 今後も参加するつもりはない	33.5	40.5	42.0	42.0	35.4	27.9	30.8	37.5	32.5	31.4	34.8	30.6	34.3
無回答	3.8	2.7	4.0	0.0	2.0	0.7	3.6	0.0	7.8	1.7	2.1	1.6	10.1

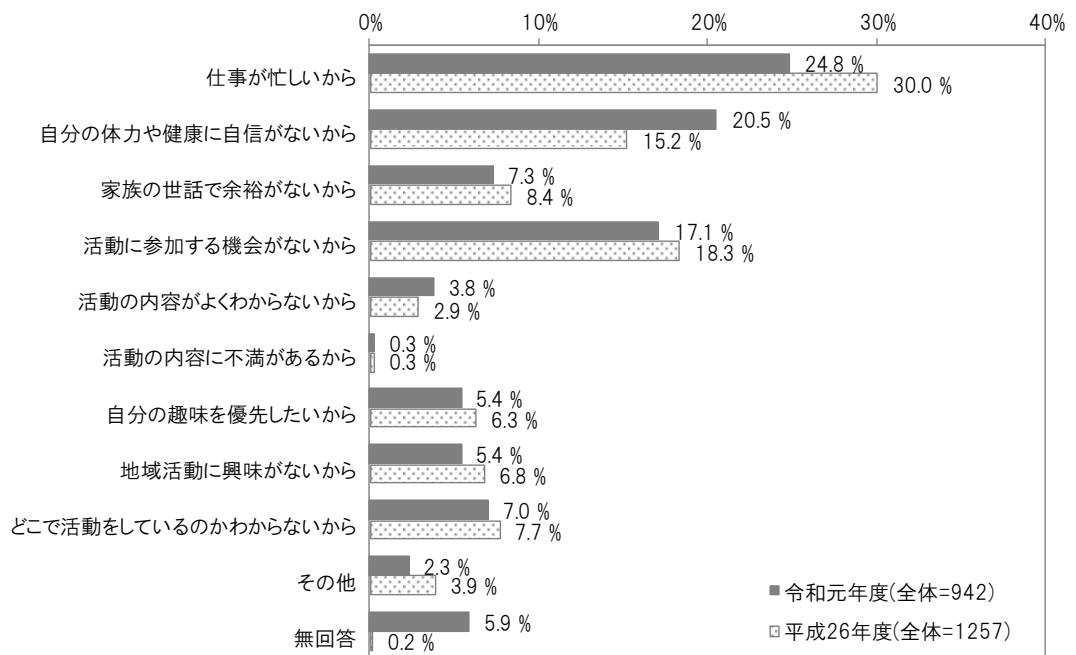
図表 33 参加している／したことがある場合の活動団体(問 22)



地域活動に参加しない理由は、前回同様に「仕事が忙しいから」が最も多くなっていますが前回よりも約5ポイント減少しており、「自分の体力や健康に自信がないから」は前回よりも約5ポイント増えています。

男性70歳以上、女性60歳代以上では「自分の体力や健康に自信がないから」が特に多くなっています。

図表 34 活動に参加しない理由(問 24)



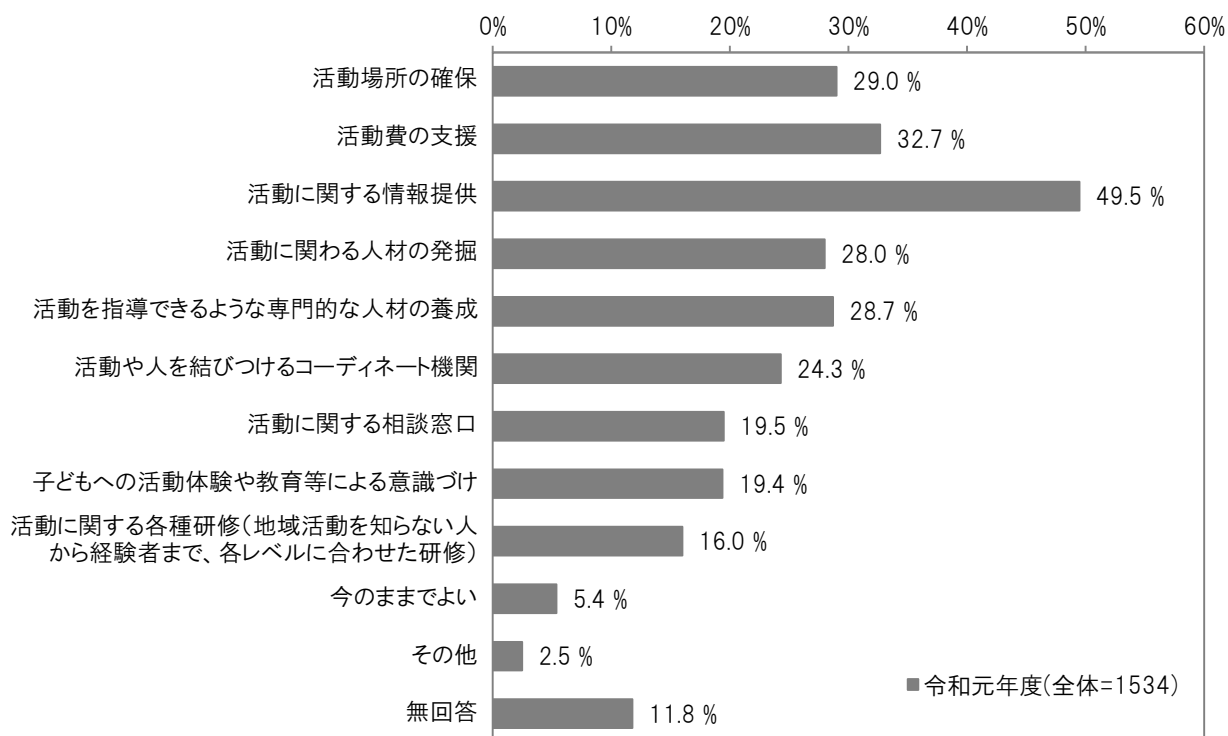
※前回調査の回答条件は団体で「活動していない」人となっています。

回答者数(人):実数 以下割合(%)	全体	性別/年齢											
		男性						女性					
		29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	29歳以下	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
回答者数(人)	942	26	38	64	76	84	114	53	52	76	96	108	137
仕事が忙しいから	24.8	26.9	50.0	43.8	47.4	26.2	5.3	26.4	28.8	35.5	33.3	14.8	6.6
自分の体力や健康に自信がないから	20.5	7.7	2.6	6.3	7.9	14.3	39.5	3.8	5.8	9.2	11.5	31.5	45.3
家族の世話で余裕がないから	7.3	0.0	2.6	6.3	3.9	3.6	4.4	9.4	19.2	14.5	11.5	8.3	4.4
活動に参加する機会がないから	17.1	19.2	21.1	12.5	23.7	22.6	13.2	30.2	21.2	17.1	14.6	15.7	10.2
活動の内容及くわからないから	3.8	3.8	5.3	6.3	3.9	1.2	3.5	1.9	1.9	2.6	4.2	6.5	3.6
活動の内容に不満があるから	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
自分の趣味を優先したいから	5.4	7.7	7.9	7.8	0.0	10.7	10.5	3.8	0.0	1.3	4.2	5.6	4.4
地域活動に興味がないから	5.4	7.7	10.5	1.6	6.6	6.0	5.3	1.9	7.7	6.6	5.2	4.6	4.4
どこで活動をしているのかわからないから	7.0	19.2	0.0	7.8	3.9	10.7	6.1	13.2	7.7	7.9	6.3	6.5	4.4
その他	2.3	0.0	0.0	4.7	1.3	0.0	5.3	3.8	0.0	1.3	3.1	0.9	3.6
無回答	5.9	7.7	0.0	3.1	1.3	4.8	5.3	5.7	7.7	2.6	6.3	5.6	13.1

② 地域活動などを活性化するために必要なこと

「地域共生社会」を目指す上で力を入れるべきことは、「活動に関する情報提供」が最も多く、次いで「活動費の支援」「活動場所の確保」「活動を指導できるような専門的な人材の育成」が多くなっています。

図表 35 地域共生社会を目指す上で力を入れるべきこと(問 33)



6 地域福祉の推進に係る課題

課題1 包括的な相談支援体制の強化

高齢者、障がいのある方が増加していることや、生活が困窮している方、長期間外出していない方などがアンケート調査結果からもみられます。また、今後は育児と介護を同時に担うダブルケア^{※26}、高齢の親と働いていない独身の子ども世帯、といった複合的な問題を抱える家庭が増えてくることも考えられます。

これらの社会的支援が必要な方に対して、それぞれが求める情報を適切に提供し、多様な課題を包括的に受け止める相談体制を整備するとともに、適切かつきめ細やかなサービスを提供する体制づくりが重要となります。

課題2 地域のつながりの強化

近所付き合いの満足度は、アンケート調査結果では上がっていますが、高齢者などを手助けしている割合が減少している一方で、手助けをしたことがない割合は増えていることから、地域のつながりが希薄化している状況にあります。地域の住民がともに支えあい、助け合いながら地域活動を進めることが必要であり、自治会などが中心となって活動を進めることが特に求められています。

そのため、地域で顔の見える関係をつくり、住民同士が協力し合える地域をつくっていくことが必要です。

課題3 地域福祉の意識醸成、地域活動などの活性化

自治会加入世帯数やボランティアセンターへの登録者数は横ばい傾向にあり、高齢化による地域活動の担い手の固定化や、不足につながります。

アンケート調査結果からは、地域活動への参加者及び参加希望者は回答者の6割以上と、比較的高い割合となっており、若年層の参加希望も比較的高いことから、地域福祉活動の基盤強化のための素地を備えていることがうかがえます。

今後は、地域活動などを活性化させていくためにも、参加希望者が求める情報や参加機会の情報をきめ細やかに提供することや、活動費の支援、活動場所の確保、若年層を中心とした人材の発掘・育成といったことに積極的に取り組んでいくことが必要とされています。